

下呂市公園整備計画(バランス期) ～第2ステージ 多様な活用編～



令和6年3月
下呂市



目次

第1章 はじめに	1
1-1 背景	
1-2 公園緑地整備検討協議会	
1-3 下呂市公園整備計画(子ども期)～第1ステージ 遊具整備編～	
第2章 第2ステージへの引き継ぎ事項	3
2-1 第2ステージへの引き継ぎ	
2-2 公園整備の方針(第1ステージ第3章 3-2)	
2-3 整備の時期(遊具のみ)(第1ステージ第3章 3-6)	
第3章 事業計画案の変更	4
3-1 飛驒川公園の遊具整備	
3-2 ふれあいパーク(金山)の遊具整備	
3-3 縄文公園(下呂)の遊具整備	
3-4 大島きこり公園(小坂)の遊具整備	
3-5 馬瀬わかあゆ子育て・保育ステーション(馬瀬)の遊具整備	
3-6 整備の時期	
第4章 バランス期の公園整備のあり方	12
4-1 公園整備の方針(再掲)	
4-2 市民の生活の質の向上につながる公園	
4-3 公園に人が集まる仕掛けをつくる	
4-4 公園で快適にすごせる環境をつくる	
4-5 公園設備の整備	
4-6 バランス期についての協議の過程	
第5章 計画の引き継ぎ	18
5-1 計画内容の引き継ぎについて	
委員名簿	19

第1章 はじめに

1-1 背景

公園・緑地は、地域に活力とゆとりを与える潤いのある場であるとともに、災害時の避難場所など、多様な面において生活を支える重要な施設です。下呂市の公園は、市町村合併前に整備された施設が殆どで、当時の社会状況やニーズにより様々な形で整備されました。

しかしながら公園整備とその在り方については、設置の目的や活用の多様性についての再検討や市役所内の横断的な取り組みなども行われることなく、施設の維持と補修のみがおこなわれてきたのが実情です。また、古くなった遊具や設備は安全性という視点から使用禁止または撤去となり、公園整備後の機能は年々低下しています。

こうした中で、市民からの公園整備に関する期待は高く、とりわけ子育て世代の潜在ニーズは非常に高いものとなっており、少子化や超高齢化社会を迎えた地域が広範囲に点在する本市において、現状の公共空間である公園の整備と活用について検討していくことは、SDGsの目標11「住み続けられるまちづくりを」にも呼応する急務な取り組みとなっています。

1-2 公園緑地整備検討協議会

下呂市では、市内の公園の総合的な整備に関して必要な事項を協議するために、令和4年度に公園緑地整備検討協議会を設置しました。

公園は利用者の属性、用途も多様であり、余暇のほか、子どもの遊び場やスポーツ、健康づくり、イベント会場として活用されています。多世代、多目的かつ多用途に使用される公園整備の課題を早期に解決するためには焦点を絞った議論が必要です。そのため検討段階を3つのステージに分類します。

令和4年度の公園緑地整備検討協議会（以下「第1期協議会」という。）は、第1ステージの子育て期について「下呂市公園整備計画（子ども期）～第1ステージ遊具整備編～」を策定し、令和5年度の同協議会（以下「第2期協議会」という。）は第2ステージのバランス期について本計画を策定しました。

◆公園緑地整備検討段階の分類

第1段階 子育て期	急速に少子化が進行する中でより早く拠点公園に関するニーズや意見を集約し早期に対応するため子育て世代を中心とする。
第2段階 バランス期	拠点公園の公共空間としての多様性を加味した形で様々な形で意見が聞けるようにする。
第3段階 地域期	地域公園を中心とした検討をするため地域を中心に話し合いが出来る仕組みにする。

◆公園の利用区分

拠点公園		地域公園
中核公園	地区公園	
利用区分が下呂市全体の中核公園	利用区分が旧町村(地区)単位の公園	利用区分が学校区、自治会単位の公園・広場

1-3 下呂市公園整備計画(子ども期)～第1ステージ 遊具整備編～

令和4年度の第1期協議会では、第1ステージの子育て世代のための遊び場の充実にあたり、

①遊具の整備を行う拠点公園の決定(各地区またはエリアで1つ)

②整備する遊具の種類や規模等の決定

について、市内各こども園の保護者アンケートの結果に基づいて協議しました。

「①遊具の整備を行う拠点公園」については、下記のとおり決定しました。

◆拠点公園

拠点公園	
中核公園	地区公園
利用区分が下呂市全体の公園	利用区分が旧町村(地区)単位の公園
・飛騨川公園(萩原地区公園を兼ねる)	・大島きこり公園(小坂地区) ・縄文公園(下呂地区) ・ふれあいパーク(金山地区) ・馬瀬わかあゆ保育ST(馬瀬地区)

「②整備する遊具の種類や規模等」については、同アンケートの自由意見等を参考に6歳～12歳用の遊具を基本とし、地区のニーズに合わせて幼児用遊具の設置についても可能であるとししました。

遊具の仕様については、下呂市第二次総合計画に「誰もが安心して暮らせる社会をつくる」と明記されていることから、障がいの有無に関わらず「誰もが遊べる」という視点を重要視した遊具を整備することで、子育て世代を総合的に応援することになりました。

誰もが遊べる遊具(インクルーシブな遊具)

インクルーシブは包摂(ほうせつ)的などという意味でSDGs目標の目標4, 8, 9, 11, 16でも使用されています。簡単にいえば「みんな一緒」という意味です。これからの社会の形として、最近、多くの場面で使用されるキーワードです。

そして、下呂市では、誰もが簡単に安全で使い勝手がよく楽しめる遊具整備を実施するため、次の5つの性質を整備する遊具に求めることにしました。

1. 公平性 誰でも利用できる
2. 簡便性 使用方法が簡単で分かりやすい
3. 安全性 事故などの心配が無い
4. 機能性 使う上で楽に使えたり様々な機能要素が高い
5. 快適性 使いやすさと空間の確保



第2章 第2ステージへの引き継ぎ事項

2-1 第2ステージへの引き継ぎ

「下呂市公園整備計画（子ども期）～第1ステージ遊具整備編～」において策定された計画は、第2期協議会が担当する第2ステージに引き継がれています。ただし、引き継がれる内容は3-2公園整備の方針と、3-6整備の時期（遊具のみ）とされています。

そのうち、第2期協議会の協議により変更された内容は、第3章「事業計画案の変更」に記載します。

2-2 公園整備の方針（第1ステージ第3章 3-2）

公園整備に向けて公園緑地整備検討委員会としては、次の方針で進めます。

1. 人口減少社会を迎えるなかで、「持続可能」な公園整備を目指す。
2. 子育て世代のための遊び場を充実する。（遊具の整備）
3. 地域バランスを確保する。
4. 地域公園の整備の方向性を示す。（管理方法や制度の検討）

2-3 整備の時期（遊具のみ）（第1ステージ第3章 3-6）

遊具整備の時期は下表（事業計画案）とします。拠点公園のうち飛騨川公園は、金山を除く地区の代替えとして取り扱うことが出来るため整備の順番は、金山、下呂、小坂、馬瀬の順とします。

ただし令和5年度以降に開催される「第2段階 バランス期」と調整する必要がありますが、遊具整備については早期の実現を目指すため令和5年度から令和7年度までの3年間を計画期間とします。また、整備時期については状況に応じて臨機応変に対応することとします。

【事業計画案】

内訳	R5	R6	R7
公園名 (エリア)	飛騨川公園 (萩原)	ふれあいパーク(金山) 縄文公園(下呂)	大島きこり公園(小坂) わかあゆ保育 ST(馬瀬)
事業費	32,000 千円	14,000 千円	10,000 千円
国県支出金	10,000 千円		
一般財源	22,000 千円	14,000 千円	10,000 千円

※財源はふるさと納税を原資とした基金を使用する。

第3章 事業計画案の変更

3-1 飛驒川公園の遊具整備

令和5年度の第2期協議会においては、第1ステージから引き継がれた事業計画案のうち、令和5年度の下呂市事業として実施される飛驒川公園の遊具整備について協議しました。

その結果、幅広い年齢層に対応した幼児用複合遊具と乳幼児用遊具を設置することを決定しました。

また、協議会では遊具メーカーの提案書を審査して、下呂市に選定事業者の提案を行いました。

【飛驒川公園】

下呂市萩原町上呂2250 番地1

飛驒川公園は、萩原町上呂にある広さ7万平方メートルの大型河川敷公園です。サッカーグラウンドをはじめテニスコート、グラウンド・ゴルフコース、サイクリングコースが整備された下呂市を代表する公園です。花の名所としても知られ、特に春は桜をはじめ花の数が多くお勧めです。

芝生広場は滑り台などの遊具、ベンチはありますが子供向け遊具が少なく整備が期待されています。

【飛驒川公園の遊具の整備方針】

幅広い年齢層に向けた公園の子育て支援機能を強化するため、6歳～12歳向けの児童用複合遊具の整備にあわせ、3歳～6歳向けの幼児用複合遊具及び0歳～3歳向け遊具の整備を行います。

【視察】

最新のインクルーシブ遊具を備えた公園、設置後に10年以上経過した大型遊具の老朽化状況等を実際に目で見て、触れることで遊具選定の参考とするために、愛知県の公園3ヶ所を視察しました。

期 日:令和5年7月5日

場 所:愛知県名古屋市 細口池公園、牧野ヶ池公園、小幡緑地公園

人 数:協議会委員7名、市職員2名、遊具メーカー

＜委員の意見＞

- ・子どもだけでなく、トイレや休憩施設など保護者も安心して楽しめる公園環境が大切だと感じた。
- ・インクルーシブ要素に寄りすぎると物足りない気がする。高さのある複合遊具は魅力がある。
- ・経年劣化は避けられないので、将来時点の流行にあわせて20年程度で遊具更新を考えるのがよい。



【選定】

「一般社団法人日本公園施設業協会」に加盟及び同等の安全基準を持つ国内メーカー5社からの遊具提案書を審査しました。同協会に非加盟でありながら同等の安全基準を持つと判断されるメーカーからも遊具の提案があり、審査対象とすることの是非をあらかじめ協議した上で、同メーカーを含めて審査を行いました。（審査の結果、同メーカーは選定されておられません）

選定方法としては、6歳～12歳向けの児童用複合遊具の提案について書面審査によりメーカー1社を選定しました。なお、3歳～6歳向けの幼児用複合遊具及び0歳～3歳向け遊具は、前述の選定事業者の製品をあわせて整備するものとししました。

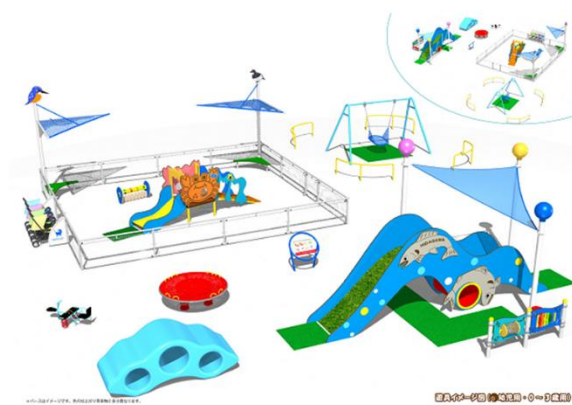
審査の結果を下呂市に提案し、下呂市では第2期協議会の提案を最大限尊重して遊具メーカーの選定を行いました。

＜委員の意見＞

- ・遊具整備の内容及び審査対象とするメーカーについて、第1ステージの計画を変更する場合は、第2ステージの計画に変更内容を盛り込む等により、市民に経緯を説明することが必要である。
- ・6歳～12歳向けの児童用複合遊具について審査の上で事業者を選定したが、付属する幼児用遊具及び乳幼児用遊具の仕様については、下呂市と事業者による十分な調整を行ってほしい。



児童用遊具イメージ



幼児用・乳幼児用遊具イメージ



公園パース



遊具設置場所

3-2 ふれあいパーク(金山)の遊具整備

第1ステージでは、子育て期の遊具整備について早期の実現をめざすために、令和5年度から令和7年度の事業計画案が立てられ、各地区の拠点公園での遊具整備を進めることになっています。

飛騨川公園に次いで優先度の高い金山地区への遊具整備は令和6年度の事業に位置づけていますが、拠点公園に位置づけられたふれあいパーク内にある老朽化した使用中止の子ども用ミニプールや和式トイレの扱いが課題となっており、公園全体の整備方針について早期に決定する必要があります。

一方で、遊具整備の場所について、金山こども園の幼児用遊具の休日開放を活用できないか、との考え方もあり、第2期協議会では、金山地区の委員が地域関係者とのワークショップ及び子育て世代へのアンケートを行い、それを協議会に諮って下記のとおり公園整備方針を決定しました。

【金山リバーサイドスタジアム(ふれあいパーク)】

下呂市金山町金山911番地1(公園は、金山1631番地1)

ふれあいパークは、金山リバーサイドスタジアム周辺に整備された公園です。比較的アクセスも良く、道の駅「飛騨金山ぬく森の里温泉」のエリアに位置することから子どもたちの遊び場となっています。

以前は、夏場の水遊び場としてミニプールなど多くの方が利用されていましたが、老朽化等により現在は使用できなくなっています。施設利用者からは、遊具整備だけでなく子どもの遊び場として全体的な整備が期待されています。

＜金山地域アンケートでの意見(令和4年度)＞

- ・使用中止のミニプールが残されていて、小さな子どもには危険。
- ・ミニプールに雨水が溜まって不衛生である。
- ・ミニプールを撤去して遊べるスペースにしてほしい。

＜金山地域アンケートでの意見(令和5年度)＞

- ・令和5年10月実施。金山こども園保護者・児童館利用者等152名が回答。

①遊具について

- ・想像力を膨らませて「見立て遊び」ができる複合遊具がほしい。
- ・複合遊具は人が集まるシンボリックな遊び場になる。
- ・未就学児から小学生まで、幅広い子どもの年齢に対応した遊具がほしい。
- ・金山全域からアクセスがよい場所で、子どもの目を引いて、親子で集える遊具がほしい。

②プールについて

- ・アンケート回答者の80%はプールを「不要」だとしている。
- ・一方で、幼児用の安全な水遊び場があれば子ども連れで行きたいとの意見もある。

③公園周辺整備について

- ・ボール遊びや自転車の練習ができる広い場所がほしい。
- ・草刈りや樹木の枝払いの管理を徹底してほしい。清潔でおむつ替えができるトイレがほしい。
- ・安全のために公園に常駐する管理人や、自販機などがほしい。
- ・公園整備や維持管理にコストがかからないようにしてほしい。

＜金山地域ワークショップでの意見(令和5年 10 月 11 日)＞

- ・地元区長として、草刈りやトイレなどの管理を求める。地元区も谷の清掃等で協力する。
- ・指定管理者（スポーツマックス）では、プールやトイレが実際に使用されていないので使用中止した。公園の活用としては、桜ライトアップを行いたい。指定管理者としてしっかり管理は行う。
- ・ゆったり館のマルシェ主催者では、公園でイベントが開けるように電源が設置されているといい。イベントの際など、近くに遊具があれば子ども連れの方にも来場してもらえる。
- ・子育て世代の地域住民として、使用できないプールは景観も悪く、危険なので撤去してほしい。跡地には築山などがあると幼児でも遊べる。広場は草を短く刈り込んだ状態で維持してほしい。

【ふれあいパークの検討】

金山地域の子育て世代では「公園整備＝遊具整備」と捉えられており、遊具整備の場所は「公園」に限らなくてもよいとも考えられたことから、子育て世代の支援としての遊具整備の場所について、こども園の休日開放や、児童館を併設している金山市民会館周辺も併せて検討しました。

その結果、公園緑地整備の検討過程において実施された複数回のアンケートでは、いずれも遊具整備の適地にふれあいパークが選ばれていること、自動車でのアクセスがしやすいこと、こども園の幼児用遊具の休日開放では幅広い年齢の子どもの遊び場としては最適と言えないこと等の意見が出され、当初計画のとおり同パークが遊具整備の適地だと判断しました。

一方で、金山地域の「拠点公園」としては、ふれあいパークが位置する道の駅エリアで多くのイベントやマルシェ等が開催されていながら、同パークは積極的に活用されていない状況があります。

同パークの指定管理者やマルシェ等の主催者は、今後、桜のライトアップや各種イベントを実施したい意向があることから、園内の老朽化により使用中止されたミニプールを撤去した上で、自由な使い方ができる広場として整備してはどうかと考えました。

【ふれあいパークの整備方針】

ふれあいパークは、新設する遊具と自由な使い方ができる広場で構成します。第1ステージの遊具設置に限定された事業計画案を変更して、ミニプールの撤去を実施します。また、老朽化して使われていない和式トイレについても、バリアフリー化した洋式トイレに再整備を実施します。

遊具整備の場所に関しては、こども園と公園では遊具整備の考え方が異なり、6歳～12歳向けの児童用遊具が求められていることから、当初計画のとおり同パークへの遊具整備を実施することとします。3歳～6歳の幼児にも対応できるように、遊具のほかにも築山等の地形を活かして遊べる環境ができな

いか検討します。

3-3 縄文公園(下呂)の遊具整備

第1ステージでは、下呂地区の拠点公園に縄文公園を定め、その遊具整備を令和6年度の事業に位置づけていますが、肝心の拠点公園の設定自体に異論が出ています。

第1期協議会のアンケートでは、拠点公園の候補地として最も多い回答が雨情公園であり、しらさぎ緑地公園にも多くの回答がありました。しかしながら、両公園ともに砂防や河川敷の関係で構造物の設置に制限があるため、下呂と竹原の中間的なアクセスも考えて縄文公園が選ばれた経緯があります。

一方で、縄文公園の立地や、遺跡内への遊具の設置制限などに課題があります。また、下呂温泉街には令和5年4月に「ふれあい広場」がオープンし、同広場の活用についても意見がありました。

そこで、第2期協議会では、下呂地区の委員を中心に改めて拠点公園について検討を行い、それを協議会に諮って下記のとおり公園整備方針を決定しました。

【縄文公園】

下呂市森 1808 番地37

縄文公園は、下呂市ふるさと歴史記念館に隣接する公園です。この公園は、史跡公園として市民に親しまれています。公園内には、縄文時代、弥生時代の竪穴住居跡が復元されています。公園内には芝生の広場などもあります。

過去にはアスレチックや遊具などもありましたが、現在は老朽化により殆どが撤去されています。縄文公園は、トイレや駐車場もあり、竹原からのアクセスも良い施設です。下呂地区の公園には遊具が無いいため遊び場の整備について期待されています。

【縄文公園の検討】

子育て世代を集めるには市街地の公園がよいとの意見がありますが、砂防や河川敷といった構造物設置の制限、また「ふれあい広場」は補助金上の制限があり難しいと考えられます。

縄文公園については、遺跡のエリアでも盛土部分であれば遊具整備が可能であると分かりました。

一方、下呂地域でも「公園整備＝遊具整備」と捉えられており、観光地として、子ども連れの観光客の利用を考えた場合には、季節や天候を問わず利用できる屋内遊技場を民間の有料施設として誘致することでも目的が達せられるのではないかと考えられます。

【縄文公園の整備方針】

下呂地区は人口も多く、子ども連れの観光客等の利用も考えられることから、金山地区に次いで遊具の整備を行う優先度が高いエリアです。本地区の拠点公園としては、下呂のルーツである縄文時代の歴史に触れられる縄文公園を改めて選定しました。

縄文公園は、遺跡保護のために盛土がされた広場になっており、盛土部分であれば遊具等の構造物の設置が可能です。遺跡内にある復元竪穴式住居等の展示物と景観がマッチするよう、遺跡をモチーフにした遊具を整備することで、遊びながら歴史に関心を持ち、施設内にある下呂ふるさと歴史記念館への来場者増加も期待できます。

なお、拠点公園の選定に時間を要したため、整備時期についても見直して令和7年度とします。

3-4 大島きこり公園(小坂)の遊具整備

第1ステージでは、小坂地区の拠点公園に大島きこり公園を定め、その遊具整備を令和7年度の事業に位置づけています。

同公園は芝生広場と野外ステージが主体の公園で遊具はありませんが、地元有志を中心にイベントやマルシェなどで活用され、公園の使い方を自由に工夫して楽しんでおられることから、小坂地域の委員から遊具整備ありきではない公園整備のあり方を考えたいとの意見が出されました。

第2期協議会では、小坂地区の委員が同公園を利用する地域関係者とのワークショップを行い、それを協議会に諮って下記のとおり公園整備方針を決定しました。

【大島農村公園(大島きこり公園)】

下呂市小坂町大島987番地7

小坂町にある大島きこりセンター横の公園です。芝生広場には、ステージ、あずまや、ベンチがあり周辺を遊歩道で囲まれた形状の公園です。トンネル状に作られた藤棚は、地域の有志によるイルミネーションが行われたこともあります。

公園には遊具は無く、小さなお子さんは、近くにある「おさかこども園」の遊具を使うこともできますが、小学生の子ども達の遊び場が無いことから、地区公園として遊具の整備が期待されています。

＜小坂地域ワークショップでの意見(令和5年10月25日)＞

- ・マルシェ主催者としては遊具を邪魔だとは思わない。
- ・子どもがサッカー等で広場を使っているので、遊具で狭くならないようにしてほしい。
- ・幼児用遊具は子どもが遊べる年齢の期間が短く、児童は飛騨川公園の遊具に行ってしまうと思う。
- ・既製品の遊具ではなく、園内の築山を利用したすべり台や土管トンネル等を作ってはどうか。
- ・イベントやマルシェをはじめ、子どもだけでなく大人世代も集まってくるような広場にしたい。

＜協議会での意見＞

- ・何もないので地元で工夫して楽しんでいる公園である。
- ・遊具で芝生広場が狭くなると、自由な楽しみ方ができる良さがなくなる。
- ・幼児用の遊具は近くのおさかこども園の休日開放を利用できる。
- ・小学生の遊び場を求めて高山市まで出かける人は、市内では飛騨川公園に整備される遊具に向かうと思われるので、きこり公園に小規模な遊具を整備する効果は少ないのではないかと。

【大島きこり公園の検討】

大島きこり公園については、地元で公園を活用している方等の意見を聞きながら、児童用遊具の設置が必要なのか検討しました。「自由な空間」に魅力を感じているという意見があり、既製品の遊具ではなく、築山等の地形を活かした遊び場を作ってはどうか、との意見もありました。

【大島きこり公園の整備方針】

大島きこり公園の遊具整備のあり方を検討した結果、令和7年度の遊具整備については実施せず、再度検討していくこととします。

3-5 馬瀬わかあゆ子育て・保育ステーション(馬瀬)の遊具整備

第1ステージでは、馬瀬の拠点公園に馬瀬わかあゆ子育て・保育ステーションを定め、その遊具整備を令和7年度の事業に位置づけています。

同保育ステーションは子育て拠点施設であることから、広い園庭と多くの幼児用遊具があり、休日開放されています。ここに公園整備として遊具を新設する必要があるのか委員から疑問が出されています。

また、児童は飛騨川公園の遊具に向かうことが考えられます。

そこで、第2期協議会では、馬瀬地区の委員が同保育ステーションの関係者から聞き取りを行い、それを協議会に諮って下記のとおり公園整備方針を決定しました。

【馬瀬わかあゆ子育て・保育ステーション】

下呂市馬瀬名丸1041番地

わかあゆ子育て保育ステーションは、子育て支援と未満児保育などを行う馬瀬地区の子育て拠点施設です。保育園なので園庭は広く、たくさんの遊具が配置されています。

園庭は、フェンスに囲まれているため小さなお子さんも安心して遊ぶことができますが、遊具が老朽化しており、その整備が期待されています。小さなお子さんを中心とした遊び場として検討します。

【馬瀬わかあゆ子育て・保育ステーションの検討】

馬瀬わかあゆ子育て・保育ステーションについては、子育て拠点施設として指定管理者であるNPO法人サン・はぎわらが管理をしており、遊具も古くなっていますが安全に管理されています。

同保育ステーションの所管課であるこども家庭課では遊具の更新方針はありませんが、公園整備として遊具整備を行う施設ではないことから、遊具の新設を行わないことを検討しました。

【馬瀬わかあゆ子育て・保育ステーションの整備方針】

公園整備として遊具整備を行う施設ではないため、令和7年度の遊具整備については実施せず、再度検討していくこととします。

3-6 整備の時期

遊具整備の時期は下表（事業計画案）の令和5年度から令和7年度までの3年間を計画期間とします。
また、整備時期については状況に応じて臨機応変に対応することとします。

【事業計画案】

内訳	R5	R6	R7
公園名 (エリア)	飛騨川公園 (萩原)	ふれあいパーク (金山)	縄文公園 (下呂)
事業費	60,423 千円	25,429 千円	10,014 千円
国県支出金	10,000 千円		
一般財源	50,423 千円	25,429 千円	10,014 千円

※財源はふるさと納税を原資とした基金を使用する。

※大島きこり公園（小坂）及び馬瀬わかあゆ子育て・保育ステーション（馬瀬）の遊具整備は実施せず、整備時期について再度検討を行う。

第4章 バランス期の公園整備のあり方

4-1 公園整備の方針(再掲)

公園整備に向けて公園緑地整備検討委員会としては、次の方針で進めます。

1. 人口減少社会を迎えるなかで、「持続可能」な公園整備を目指す。
2. 子育て世代のための遊び場を充実する。(遊具の整備)
3. 地域バランスを確保する。
4. 地域公園の整備の方向性を示す。(管理方法や制度の検討)

令和5年度の第2期協議会では、第2ステージであるバランス期の公園整備計画の策定にあたり、公園整備方針の「1. 人口減少社会を迎えるなかで「持続可能」な公園整備を目指す」及び「3. 地域バランスを確保する」について、拠点公園の公共空間としての多様性のあり方を検討しました。

4-2 市民の生活の質の向上につながる公園

公園は子育て支援の場であるとともに、地域住民の憩いの場であり、交流の場として機能する公共空間です。公園には、公園が持つ様々な効果によって市民の生活の質を向上させ、下呂市の各地域における生活の満足度を高める役割があります。

しかし、下呂市の公園は建設当時から再整備が行われず、施設の老朽化が進んでいたことから、子育て世代をはじめとする市民は憩いの場を求めて市外の大規模公園に行くことになり、市内の公園は地域の憩いの空間や交流の場としての役割を果たすことができなくなっています。

そこで、公園整備の第2ステージにおいては、幅広い世代の市民が公園に積極的に関わり、多様な利用の仕方によって市民が公園に愛着を持ち、市民の生活の質が向上することで、下呂市が市民に選ばれる、住み続けられるまちを実現するための公園のあり方を検討しました。

【公園が持つ生活の質の向上効果(国土交通省)】

1. 環境維持・改善効果

- ・生物多様性の確保、ヒートアイランドの解消等の都市環境の改善をもたらす効果。

2. 健康・レクリエーション空間の提供効果

- ・健康運動、レクリエーションの場として心身の健康増進をもたらす効果。

3. 景観形成効果

- ・季節感を享受できる景観の提供、良好な街並みの形成効果。

4. 文化伝承効果

- ・地域の文化を伝承、発信する効果。

5. 子育て・教育効果

- ・子どもの健全な育成の場を提供する効果。

6. コミュニティ形成効果

- ・地域のコミュニティ活動の拠点となる場、市民参画の場を提供する効果。

【健康・レクリエーション空間を提供する公園】

1. 飛驒川公園(萩原)

- ・飛驒川対岸のあさぎりスポーツ公園と一体となったサッカーコート、テニスコート、グラウンドゴルフ場があり、下呂市の中核スポーツ施設として市民の健康づくりの場を提供します。
- ・ウォーキングやランニングの場として、飛驒川公園一周、朝霧橋からスポーツ公園橋を結ぶ飛驒川を巡る周回、四美から羽根にかけての桜巡りなど、季節や体力に応じてウォーキングのコースや距離を選ぶことができます。

【景観を形成する公園】

1. 飛驒川公園(萩原)

- ・園内に約 600 本もの桜並木が続き、四季の花が楽しめる花壇が整備されています。芝生広場や飛驒川の景観とあわせて、萩原地区を代表する緑と清流の景観をつくります。

【文化伝承の場としての公園】

1. 縄文公園(下呂)

- ・峰一合遺跡と下呂ふるさと歴史記念館を中心とした公園で、下呂石を生んだ湯ヶ峰を望み、土器づくりや勾玉づくり体験など、下呂市のルーツに触れる歴史体験ができる学習型の公園をつくります。

【子育て・教育の場としての公園】

1. 飛驒川公園(萩原)

- ・0歳～12歳までの幅広い年齢層に対応した遊具を整備するほか、NPO法人サンはぎわらと連携した子育てイベント「森の宝島」の開催など、子育ての交流拠点として公園を活用します。

2. 馬瀬わかあゆ子育て・保育ステーション(馬瀬)

- ・NPO法人サンはぎわらが管理する保育ステーションなので園庭は広く、たくさんの遊具が配置されています。園庭は、フェンスに囲まれているため小さなお子さんでも安心して遊ぶことができます

【コミュニティ形成の場としての公園】

1. 大島きこり公園(小坂)

- ・地域の人たちが自由に芝生広場を活用してイベントを開き、キッチンカーが集まるマルシェなど、地域の生活にはない非日常空間を楽しめる場として公園を活用します。

2. 飛驒川公園(萩原)

- ・萩原地域におけるイベント開催場所であり、「さくらまつり」などに地域の人々が集うコミュニティづくりの場として活用します。

3. ふれあいパーク(金山)

- ・道の駅エリアにおいて自由に使い道を考える広場を再整備して、桜ライトアップの開催や、マルシェ・イベント等の開催により、地域の人々が集うコミュニティづくりの場として活用します。

4-3 公園に人が集まる仕掛けをつくる

市民の生活の質を向上させる公園づくりは、ハードとしての公園整備がゴールではありません。

幅広い世代の市民に公園に関心をもってもらい、地域の憩いの場にするためのスタートとして公園に人が集まる仕掛けをつくるにはどうしたらよいかを検討しました。

＜萩原地域ワークショップでの意見(令和5年12月9日)＞

- ・公園に児童遊具の他にも自転車、竹馬等の昔遊び、スケートボードエリア等の遊びを備える。
- ・公園のイベント・スポーツやボランティア活動に「健康ポイント」を付与してPRする。
- ・公園に魅力的なカフェやランチが楽しめる場所（マルシェ、キッチンカー等）をつくる。
- ・マルシェやイベント開催のノウハウをマニュアル化して、どんどん公園を活用する。
- ・公園利用者の口コミを使ったSNS等での情報発信を行う。

【健康ポイント等による公園活性化の仕掛けづくり】

幅広い世代の市民に公園の活用を促進するために、スポーツやウォーキング、ランニング等による健康づくりのために公園を利用する方には、スマートフォン等で市の「健康ポイント」を付与するなど、公園に集まるための仕掛けをつくります。

同ポイントは、公園で開催される各種イベント等への参加に対しても付与することで、公園を活用して市民のコミュニティ参加を促進する仕掛けとしても機能します。

【カフェ・マルシェ・イベントによる公園への集客】

魅力のある公園のために、人が集まってくる場をつくるには、「美味しい・楽しい」体験を仕掛けていくことが有効です。富山市の環水公園内に設けられた「世界一美しいスターバックス」のように、1杯のコーヒーが開放的な芝生広場を非日常のカフェに変えてしまいます。

そこで、公園内におけるカフェやキッチンカーの営業、マルシェやイベント等の利用ノウハウをまとめてマニュアル化し、公園を活用して、食による様々な人の交流が広がる場をつくります。

【情報発信】

公園に関心をもってもらうには、公的な情報発信だけでなく、公園利用者を中心としたSNS等による口コミが有効です。小さくても魅力的な情報発信によって「公園で何やら面白いことが起きているらしい」との情報が市民に共有されていくことを狙います。

【参考：公設設置管理制度(Park-PFI)】

パークPFIとは、都市公園において飲食店、売店等の公園施設（公募対象公園施設）の設置又は管理を行う民間事業者を公募により選定する手続きのことです。

公園の設置者にとっては、事業者が経営する飲食店、売店等から得られる収益を公園整備に還元することが期待でき、事業者にとっては、都市公園という立地条件を活かした経営が期待できます。

下呂市では公園利用者からの収益がそれほど期待できないことから、公園を舞台としたもっと手軽な公民連携の手法として、カフェ・マルシェ・イベントによる集客を進めることとします。

4-4 公園で快適にすごせる環境をつくる

下呂市の公園が地域の憩いの場や交流の場として機能することで、市民の生活の質を向上させ、下呂市の各地域における生活の満足度を高める施設になるには、快適にすごせる環境づくりが重要です。

従来の公園はトイレ、休憩所などの設備がほとんど更新されず、快適でないことから公共空間としての役割を果たせなくなっていました。そこで、公園に必要な施設整備と維持管理について検討しました。

＜萩原地域ワークショップでの意見(令和5年 12 月9日)＞

- ・暑さを凌いで、風除けになる屋根付き休み場がほしい。ランチの場にもできたらよい。
- ・公園管理に市民が参加する「公園サポーター」をつくり、健康ポイントを付与する。
- ・マルシェやイベント開催のノウハウをマニュアル化して、どんどん公園を活用する。
- ・公園利用者から、使いやすい設備レイアウト等の意見を聞いて取り入れてほしい。

【公園施設】

- ・トイレ…清潔でバリアフリー化されたトイレ
- ・ベンチ…屋根付き休憩所や木陰に近い場所に、十分な数が用意されたベンチ
- ・休憩所…日陰を提供し、風を遮る休憩施設
- ・水道…芝生への散水や暑さ対策のミストシャワー、スプリンクラー等に利用できる水道

【維持管理】

公園施設の適切な維持管理のために、下呂市の様々な部局がばらばらに管理している公園とその施設設備について一元化した台帳を作成し、公園管理計画を策定して管理のための財源を割り当て、整備から管理運営、老朽化した施設の改修・廃止までの一貫したマネジメントを実施します。

【公園サポーターの活用】

公園の設置者である下呂市、公園を管理する指定管理者等の事業者とともに、公園利用者の市民や地域団体等が市民有志の公園サポーター「仕掛け人」として公園運営や管理に関わる仕組みをつくり、下呂市はボランティアの活動をサポートしていきます。

公園サポーターの活動に対しては、前述の「健康ポイント」等の付与を行うなど、市民による公園の管理運営への積極的な参加を促します。

【民間事業者との連携】

下呂市においてパーク P F I の実施は難しそうですが、公園にカフェ等を出店する事業者からの使用料のほか、公園内への有料広告の設置による新たな収入源の創出、企業版ふるさと納税等の民間事業者からの収入を公園管理に活用することを検討します。

4-5 公園設備の整備

飛騨川公園（萩原）及びふれあいパーク（金山）の公園整備については、本計画で実施します。

その他の地域の拠点公園については、必要に応じて、予算の範囲内での整備を引き続き検討します。

4-6 バランス期についての協議の過程

【第2期協議会】

○第1回協議会 期日:令和5年6月29日

- ・飛騨川公園に整備する遊具の選定について
- ・第2ステージ「バランス期」の協議テーマについて
- ・ワークショップ等の地域での意見集約方法について

○現地視察 期日:令和5年7月5日

- ・詳細は3-1 飛騨川公園の遊具整備に記載

○第2回協議会 期日:令和5年8月4日

- ・飛騨川公園に整備する遊具のメーカー選定・市への提案
- ・各地域の拠点公園の整備の課題について

○第3回協議会 期日:令和5年9月21日

- ・飛騨川公園に整備する遊具の詳細について最終決定
- ・第2ステージ「バランス期」に向けた協議について

○第4回協議会 期日:令和5年12月19日

- ・各地域の拠点公園の整備方針について決定
- ・第2ステージ「バランス期」の計画素案の策定

○第5回協議会 期日:令和6年2月13日

- ・第2ステージ「バランス期」の計画の策定

【地域ワークショップ】

○金山地域ワークショップ 期日:令和5年10月11日

- ・参加者:地域関係者、指定管理者、子育て世代、マルシェ主催者等5名
- ・内容:ふれあいパーク(金山)の整備、活用について、遊具の整備について
- ・アンケート(10月):金山地域のこども園保護者・児童館利用者等152名が回答

○小坂地域ワークショップ 期日:令和5年10月25日

- ・参加者:地域関係者、イベント主催者、こども園・小中学校保護者等13名
- ・内容:きこり公園(小坂)の活用、遊具の整備について

○萩原地域ワークショップ 期日:令和5年12月9日

- ・参加者:イベント主催者、子育て世代の市民等10名
- ・内容:飛騨川公園(萩原)の多様な活用(公園に人を集める、公園で快適に過ごす)について



協議会開催の様子



現地視察の様子

【地域ワークショップの様子】

ここでは、萩原地域ワークショップの様子を紹介します。

○公園に人が集まる仕掛けをどうつくる？

○公園にカフェやマルシェ、非日常のイベントがあったらいいな！

- ・いろいろな世代の人が集まるイベントがあるといい。
- ・公園にコンビニ弁当を持っていくのはもの足りない。
キッチンカー等のランチ販売があるといい。
- ・中高生はアイスクリームの自販機があると嬉しい。



ワークショップの様子

○公園に人が集まる「目玉企画」があるといいな！

- ・面白い自転車、竹馬、強風を活用した凧揚げなどの遊び道具がレンタルできたら楽しい。
- ・スケートボードパークを作ったら、練習場所として市内外のボーダーが集まってきます。
- ・飛騨川公園のイベントやスポーツに参加すると「健康ポイント」が付与できたらいい。

○公園を楽しみ尽くす公園活性化サポーター「仕掛け人」が、自由な意見を交わして活用方法を試したい！

- ・小坂のきこり公園では、地元有志の「夢の会」が維持管理をやっている。みんなの公園をもっと使おう！という発想で、民間主導のイベント「ハラスベリ」を開催した。言い出しっぺが大切。
- ・いつも同じメンバーにならないように、もっと多くの人に公園をジブンゴト化してほしい。
- ・マルシェやイベントの開催ノウハウをマニュアル化して、公園をスムーズに活用できたらいい。

○情報発信をどうする！

- ・高校生はSNSの発信などが得意。高校生を巻き込んで情報発信してもらえるとよい。
- ・「公式SNS」はなかなか見てもらえない。公園を使う人の口コミ情報をもっと広げたい。
- ・高齢者にはインターネットの情報が伝わらないので、回覧板などの方法を併せて使うといい。

○公園で快適に過ごせる環境をどうつくる？

○遊具、トイレ、ベンチ、東屋…公園の整備や管理運営のマネジメントをどうするか？

- ・子どもを連れて親がくつろげるように、日陰のベンチやテーブルがほしい。
- ・1年中もっと飛騨川公園を楽しみたいので、暑さ・寒さをしのぐシェルターがあるといい。
- ・ベンチの配置など、もっと「こうだったらいい！」というアイデアを聞いてもらいたい。

○市民が公園サポーター！

- ・公園の運営や維持管理に、公園を利用する市民がボランティアとして関われたらいい。
- ・大工さんなど、技術を持った方が「プロボノ」としてサポートしてもらえる仕組みをつくる。
- ・公園サポーターのボランティア活動にも「健康ポイント」が付与されるといい。

○ワークショップに参加した感想

- ・いろいろな世代、いろいろな人の意見には、気付きが多かった。
- ・公園について自分の意見を言える場所がほしかったので、とてもよい機会になった。
- ・みんなで話せて楽しかった。間口を広く、積極的に、いろんな人が関われる公園になるとよい。
- ・公園をつくる過程も、使うときも、維持も楽しい、いろんな関わり方で公園の活動に参加したい。
- ・最初は「公園＝遊具」だと思っていたが、話し合いで印象が変わった。子育てが終わっても、ことあるごとに足を運んで、交流が生まれるようなコミュニケーションの場になるといい。

第5章 計画の引き継ぎ

5-1 計画内容の引き継ぎについて

第2ステージ バランス期編で策定された計画は、第3ステージに引き継ぎます。引き継がれる内容は2-2公園整備の方針と3-6整備の時期及び4-5公園設備の整備です。

2-2 公園整備の方針(再掲)

公園整備に向けて公園緑地整備検討委員会としては、次の方針で進めます。

1. 人口減少社会を迎えるなかで、「持続可能」な公園整備を目指す。
2. 子育て世代のための遊び場を充実する。(遊具の整備)
3. 地域バランスを確保する。
4. 地域公園の整備の方向性を示す。(管理方法や制度の検討)

3-6 整備の時期(再掲)

遊具整備の時期は下表(事業計画案)の令和5年度から令和7年度までの3年間を計画期間とします。また、整備時期については状況に応じて臨機応変に対応することとします。

【事業計画案】

内訳	R5	R6	R7
公園名 (エリア)	飛驒川公園 (萩原)	ふれあいパーク (金山)	縄文公園 (下呂)
事業費	60,423 千円	25,429 千円	10,014 千円
国県支出金	10,000 千円		
一般財源	50,423 千円	25,429 千円	10,014 千円

※財源はふるさと納税を原資とした基金を使用する。

※大島きこり公園(小坂)及び馬瀬わかあゆ子育て・保育ステーション(馬瀬)の遊具整備は実施せず、整備時期について再度検討を行う。

4-5 公園設備の整備(再掲)

飛驒川公園(萩原)及びふれあいパーク(金山)の公園整備については、本計画で実施します。

その他の地域の拠点公園については、必要に応じて、予算の範囲内での整備を引き続き検討します。

令和5年度 公園緑地整備検討協議会委員（第2ステージ バランス期）

	区分	所属・役職等	検討委員氏名	
1	(1)子育て支援 団体の推薦 のあったもの	NPO 法人サン・はぎわら	内木 孝之	
2		NPO 法人ふるさと金山(R4 継続委員)	金森 亜紀	
3		NPO 法人みらいろ(R4 継続委員)	熊崎うらら	会長
4	(2)スポーツ団 体関係者	下呂市スポーツ協会	中切 幹男	副会長
5	(3)保育施設保 護者関係者	保護者会推薦者(R4継続委員)	野中 信仁	
6		保護者会推薦者(R4 継続委員)	長尾 飛鳥	
7	(4)小学校保護 者関係者	下呂市 PTA 連合会会長:小学校代表(萩原小)	小林 大洋	
8	(6)市長が認め る必要と認める 者	小坂地区(推薦)	山中 一将	
9		馬瀬地区(推薦)	藤本 星矢	

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



11 SUSTAINABLE CITIES AND COMMUNITIES



下呂市公園整備計画(バランス期) 第2ステージ～多様な活用編～

令和6年3月

下呂市 まちづくり推進部 まちづくり推進課